

発展と教育のためのキリスト教機関(CODE)

ニュースレター 2019年9月号

敬愛する里親の皆さま

わたしたちの主、救い主なるイエス・キリストの御名において、皆さまにご挨拶申し上げます。

このたった3年という短期間のうちに、わたしたちは2度もわたしたちの存続が危ぶまれる想定外の事態に直面しました。最初は2016年に、やむをえない状況で2つの子どもの家を閉鎖せざるを得ず、結果わたしたちの活動を運営するために得ていた経済的支援が停止になったことです。しかし、同年、日本の心ある多くの方々の祈りもあって、神は、社会的・経済的に恵まれない子どもたちのためのキンダーガルテンスクールを開校させてくださいました。あの時にそのようなことが出来たのは、里親の会の皆さんからの献金と祈り、またわたしたちの手元にかろうじてあった資金によるものでした。わたしたちの学校は、ゆっくりと、しかし着実に成長を続け、その中でこれまで毎年行ってきたバーケイション・バイブルスクール(VBS)などの外部向けの活動も行うことが出来ました。



ようやく活動が計画通り、順調に進展し、一安心と嬉しく思っていた、そんな矢先、2019年5月3日に凄まじい破壊力を持ったサイクロン「ファニ」が、雨と時速250キロの猛威を振るい、校舎の9割、そして関連施設のほとんどを破壊し、わたしたちの夢と希望は粉々になりました。そのさまは本当に壊滅的で、今になっても、あ

の日のことを思い起こすと、涙してしまいます。わたしたちの目撃している目の前で、一瞬にしてすべてが叩きつけられ、流されていきました。至るところで、木や電柱がなぎ倒されました。ほぼ全ての建物のアスベストやブリキの屋根は吹き飛ばされ、ほとんどの建物の壁、ドア、窓が損傷しました。わたしたちの誰しもが大きなショックを受け、心の奥底で、わたしたちのこの働きはここで終わるのだろうとっていました。電気、電話も不通となりました。すべてが粉々になりましたが、サイクロンのプリ上陸が日中であったことを神に感謝し

ました。多くの人たちが亡くならないで済んだからです。

サイクロンが通り過ぎ数時間して、雨はまだ降っていましたが、風速が少し収まったのを見て、息子のサムビート（Sambeet）を連れてプリ・キンダーガルテンスクールの様子を見に行きました。幸いなことに学校は、ちょうど夏休みの時期で閉まっていた。学校へ続く道はどの道も倒木や倒れた電柱で通れない状態でしたが、なんとか学校に到着することが出来ました。そこでわたしたちが見たものは、胸を張り裂くような光景でした。正門をはじめとして全てのものが壊されていたのです。正門から校舎までの道には木の枝やブリキとアスベストの屋根、割れたガラスや小さく割れたレンガが道を塞いでいました。どうにかして校庭に着いた時、一番ショックだったのは職員住宅が壊滅的な被害にあったことでした。

アスベストの屋根は吹き飛ばされ、どの部屋も雨水で水浸しとなり、職員とその家族の家財が台無しになっていました。幸いにも職員と家族は、校舎の比較的被害が少なかった教室に避難をしていました。更に進んで行くと敷地を取り巻く塀が2箇所倒されていて、ほぼすべてのドアと窓は壊れていました。教室のおもちゃを含む備品は雨水のダメージを受け、天井のファンも電気も壊れ、辺り一面水浸しでした。ホールに行ってみると更にひどいことに天井のアスベストの板は吹き飛ばされ、ドアも窓も壊れ、ホールは、鉄骨だけが骸骨のように残っていました。



このことは本当にわたしたちにとって心痛む辛い経験でした。これまで何度もサイクロンは経験してきましたが、今回のような絶望的な状況は見たことがありません。この殺人的なサイクロンは建物だけでなく、貯水タンク、発電機、天井のファン、天井の電気、音響設備、屋根の欄干にさえ被害を及ぼしました。被害状況の全貌を確認し終わった時、血圧が上昇し、めまいで倒れそうになりました。幸い息子のサムビートが助けてくれて、めまいが収まり事なきを得ました。このことは大きなショックで非常に心痛む経験でした。

2日間わたしたちは沈黙を強いられ、何も手につかない状態でした。停電やインターネットの不通により誰とも連絡を取ることすら出来なかったからです。およそ1週間後、携帯が通じるようになり、それと同時に松本素代美さん、小林洋一先生をはじめ多くの日本の友らより、サイクロンの被害についての問い合わせが届きました。テレビでプリのサイクロン被害の惨状を目にし、心配してくださったのです。それらのメッセージは本当に心を揺さぶられ

るもので、涙をこらえることが出来ませんでした。同時に絶望的な状況の中にあっても、わたしたちのことを心にかけていてくれる友がいることを実感でき、大きな喜びでした。

わたしの返信に対して、松本姉からメッセージが届き、そこには、皆がわたしたちのために祈っているから安心するようにと書かれていました。松本姉に被害の状況をお知らせし、写真を送りましたが、経済的支援をお願いすることに大きな躊躇がありました。なぜなら里親の会にそのような蓄えはなく、すでにわたしたちの学校のために2016年より多大な献金を送ってくださっていたからです。しかし、松本姉より学校再開のために祈ると共に、出来ることを全てやってみますと連絡が届き、神と里親の会への感謝の思いが溢れました。そして次々に祈りのこもった献金が学校再建のために届けられ、神に感謝すべきかなー 再建工事の6割がすでに完了しています。



日本バプテスト女性連合からも再建のための献金が寄せられ、『世の光』誌に被害状況の写真を掲載してくださいました。この場を借りて、わたしたちの学校のために、そして私たちが仕える社会的・経済的にハンディを負った子どもたちのために、日本バプテスト連合・日本バプテスト同盟・沖縄バプテスト連盟またすべてのメンバーの方々が捧げてくださった尊い献げものに心より感謝を申し上げます。



わたしたちは神に感謝しています。わたしたちが落ち込み、立ち上がることが出来ないと思っていた時に里親の皆さん、そして日本のバプテスト教会の皆さんが助け、慰め、わたしたちのために祈り、様々な形でお支えを通してわたしたちの心に触れ、わたしたちがもう一度前進することを可能にしてくださいました。

そして多くの教会、女性会、個人の皆さんがサイクロン被害のことを耳にし、多くの古着をはじめ被災者と生徒の家族にも配ることが出来る物資を送ってくださいました。お一人おひとりの時になった助けに感謝いたします。

写真の説明

- 1 ページ目：サイクロンにより破壊されたプリ・キンダーガルテンスクール正門に立ち尽くすモハンティ師
- 2 ページ目：サイクロンで校庭一面に木片や葉っぱが散らばっている様子
- 3 ページ目：1枚目：プリ・キンダーガルテンスクールのホール。屋根が吹き飛ばされ、鉄骨の向こうに空とヤシの木が見える。
2枚目：プリ・キンダーガルテンスクールの校舎を外から撮影したもの。屋根の破片などがすぐ側に落ちていた。